

大阪教区「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)

総合基本計画・重点プロジェクト

1. 総合基本計画

宗門では、2012(平成24)年4月から、宗門活動の柱とする運動を「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)として、これまで推進してきた「基幹運動」の成果を踏まえた、宗門全体の活動として推進しています。

大阪教区では、宗門が策定した総合基本計画・重点プロジェクトに基づき、これまでの成果や教区の実情を踏まえ、実践運動を推進してまいります。

運動推進の方向性としては、「運動推進の主体は組である」という従来からの位置づけに基づき、教区は組を支援し、教区単位で実施すべき事業は教区で実施するという、相互の連携のもとで運動の展開を図ります。

具体的には、以下の9項目を中心に取り組みを進めてまいります。

- (1) 組代表者(組長・組委員長等)との情報共有や連携
- (2) 「実践運動推進講師」派遣の促進
- (3) 時代、時世、地域環境に応じた寺院活動のあり方の研究と方途の検討
- (4) 組連研の開催奨励と門徒推進員の増員
- (5) 教学の振興と伝道の推進
- (6) 広報紙「大阪サンガ」の継続発行とSNSやホームページ上での広報活動の充実
- (7) 部落差別をはじめとする様々な差別の現実に学ぶ取り組み
- (8) 運動推進にかかる情報交換・発信、ICT環境の整備、資料等の作成
- (9) 現代に即応した組事業の支援体制や教区として取り組むべき事業を整理して、更なる運動推進に向けた組織づくり

2. スローガン 「結ぶ絆から、広がるご縁へ」

3. 重点プロジェクト

2012(平成24)年度に重点プロジェクトが提唱されて以来、教区・組・寺院・教化団体などの活動主体が、それぞれの特性に応じて独自に実践目標を定め、特色ある活動を推進してきました。

大阪教区では、第1期、第2期と合わせて6年間、現代社会が抱える諸問題を「葬送

儀礼」に集約して、実践目標を掲げて推進してまいりました。

その「葬送儀礼」に取り組む中で、故人を弔う墓制(お墓)や人生における儀礼・儀式の大切さについて学びを得ました。

そして第3期では、宗門全体の課題である「貧困問題」とあわせて、教区のこれまでの取り組みであった「葬送儀礼」での学びを継承し、教区独自の実践目標として「人生儀礼」に取り組んでまいりました。

さらに、第4期では、「貧困問題」の継続とともに、これまでの教区独自の実践目標として取り組んできた「人生儀礼」を踏まえ、宗教性とその大切さを学び、儀礼・儀式を通じた寺院の活性化による「魅力ある寺院」をめざして、その基盤づくりとなる取り組みと前期に作製した『人生儀礼ハンドブック～人生を豊かに彩るため～』をもとに、新たな人生儀礼に取り組めるモデルを提示してきました。

今後は、一般寺院がそのモデルケースを参考にして、新たな人生儀礼・儀式が行われ、「魅力ある寺院」として活性化されることに期待をすることです。

そして今期は、これまでの取り組みと成果を踏まえつつ、宗門重点プロジェクトを軸とした、その実践目標を掲げて取り組みます。

(1) 宗門重点プロジェクトの実践目標

＜^{ひんこん}貧^{こくふく}困^むの克服に向けて ～^{ダーナ}Dāna^{フォー} for^{ワールド} World^{ピース} Peace～ ＞^こ子ども^{はぐく}たちを育むために

大阪教区では、まず「貧困」とは何かについて「知る」ことからはじめ、具体的な「学び」を深めてまいりました。

そして、持続可能な支援活動を展開するため、組・組織教化団体などと協働して、まず教区内における施設や既存団体への支援活動ができるような仕組みを構築してきました。

今期は、その取り組みを普及するよう推奨していきます。そして、門信徒や地域とのつながりがさらに深まり、魅力ある寺院として活性化していくことをめざします。

以 上

【2024(令和6)年6月10日策定】